

病院だより 5月号



～4月より 川原 義典医師 が着任されました～

診療部長 川原義典

土幌町の皆様はじめまして。川原義典と申します。

もしかしたら、お聞き覚えのある方がいらっしゃるかもしれません。このように決して人様にさらしてよいマスクではございませんが、上土幌町で16年の診療経験がございますので、思い出していただける方が一人でもいらっしゃいましたら幸いです。

今年3月までの4年間は池田に通勤しておりました。十勝川温泉からワイン畑を眺めつつ、毎日のどかな道中を行き来していました。ところが、たとえ澄みわたる青空だったとしても、なぜか心はくもり空でした。昨秋、ふと土幌でお世話になってみようかなと思いを馳せたとき、スーッと雲のすき間から光が差し込む感覚がありました。音更川沿いに四季折々の色彩を放つ大地と、それを抱きかかえるようにどこまでも抜ける大空、そんなこの地域が好きなんだと改めて気づいた瞬間でした。

家族で本州から十勝に移住して20年が経ちました。4人の子どもたちは次々と巣立っていき、私もいつのまにか歳をとっていました。腰痛の悪化に毎日おびえ、小さいものを見るにはかえって顔を遠ざけないといけなくなりました。知り合いに出会っても、とっさに名前が出てこず、ごまかしながらやり過ごすことも増えました。初老と言われても全く逆らえません。昨年は、父親の死も経験しました。しかし、そういった経験は日々の診療に生きるものでした。受診する方たちの悩みが、若かった頃より理解できるようになってきました。

巷では、病気が改善するとか加齢による衰えに抗うための情報があふれています。たとえそれを活用・実践していたとしても、人間である以上、必ず衰えは進み、いつか必ず天寿をまっとうするときがやってきます。現代医療をもってしても、出来ないことや分からないことが沢山あるのが現実です。多くの方々との出会いから現時点で思うのは、『最期のときに、よい人生だったと思えること。本当に幸せな人とはそんな人なのではないか?』ということです。病気を抱えていたり、衰えが進んできたとしても、最終的にそう思えるように、微力ながら寄り添っていける医者でありたいと考えています。

たいした肩書きも持ち合わせていない町医者ですが、今までどおり、お子さんからご年配の方まで相談を承ります。もちろんスーパードクターではありませんので、私の力が及ばないときは専門家に御紹介させていただくこともあります。できるだけ分かりやすくお話しさせていただこうと思いますが、そうするとどうしても待ち時間が長くなってしまいうことが多くなります。紙面上で大変恐縮ですが、何卒ご容赦ください。

最後に、病院スタッフ全員と協力して土幌町の医療をより充実させるべく取り組んで参ります。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

【主な勤務先】 福島県立医科大学
福島労災病院
東北大学病院小児科
総合南東北病院
上土幌クリニック
十勝いけだ地域医療センター

【主な診療科】 内科、総合診療科



☆☆ 院長よりひとこと ☆☆

これまで町広報で連載を続けてまいりましたが、新たな体制となることに伴い、今後は不定期での掲載とさせていただきます。これまでお読みいただき、本当にありがとうございました。

今年度の目標は「チャレンジ!」です。

これからも地域の皆さまにとってより良い病院を目指し、職員一同力を合わせて取り組んでまいります。

今後ともどうぞよろしくお願ひいたします。